

「みんなで守ろう」

吉田 笑麻

私は、社会をよりよくするために、なぜ非行や犯罪が起こるのかを調べてみることにしました。まず、一年間に起こる犯罪や非行についてインターネットで調べてみました。一年間のうちに日本で犯罪や非行が起こるのは、けい法犯での認知件数で約七十万件、けんきょ件数で約二十七万件も起こっているそうです。主にこの原因は、周りの環境、家庭のことや、人間関係での問題などがあげられます。資料などを見てほとんどの原因は周りの環境によって起こっていることが分かりました。そこで、周りの環境などを整えることで少しでも犯罪や非行がなくなるのではないかと考えます。具体的にどのように整えるのかというと、特に環境の件は、仲の良い友だちに危険なことや、法律で禁止されていることをすすめられて非行にはしつたりすることが原因としてあげられます。非行防止対策などでは、仲の良い友だちに流されたり、危なくないと思って麻薬を使用してしまったりするそうです。あとは、夜間の未成年の暴走などもありました。私はこれを知って、断る力も必要だと考えました。自分がダメだと思うことはキッパリ断ることが大切です。たとえ、すすめてきたのが身内でも、どれだけ仲の良い友だちでも、学校の同級生でも、学校の先輩でも、大人でも。断ることは大切だと思います。もし、その誘いなどをうけてしまうと、自分も罪を犯したことなどをうけてしまうと、自分も罪を犯したことになるのです。だから自分も、自分の大切な人も守るために、そういう誘いを断る、そして自分自身も絶対に勧めてはならないと思うことが大切だと思います。ですが、少年院に入った後、また再犯する再犯率は、約三十パーセントから四十パーセント程度だそうです。三人に一人というデータもあるそうです。罪や非行を改めても、三十パーセントから四十パーセントはまた罪を犯してしまっているんだと驚きました。でも少年院を出ても再犯罪してしまうことを防ぐためにはどうすればいいのか。私は、なぜ再犯するのか考えてみました。私は、犯罪を起こした後の子どもたちが社会に出てからことで、社会に出てからうまく溶け込めなかったり、出てからも、不安がたまつたりして、また、再犯が起こるのではないかと考えました。その人の立ち直りについて、考えてみました。考えとしては、非行をした人でも生きやすい社会に変えていくことが大切だと考えました。具体例では、非行をして、悔い改めた人たちがまじめに働けるような場所や、一人ひとりが生きやすいような社会になっていったらいいなと考えます。具体的には、ボランティアや、国、地域で支えられるような社会へとなっていったらいいなと思います。私は、この「社会を明るくする運動」で、さまざまなことを知り、考えました。聞き取り以外にも知らなかった非行のことや、社会のことを知ることができました。やってしまったことは二度と消えませんが、少しづつでも、苦しむ人たちも減らせればいいなと考えます。「社会を明るくする運動」を通して、非行をしてしまった人を責めるのではなく、みんなで守っていく。そんな社会へするために、私たち子どもたちが今向き合い、未来の社会を、私たちで

明るく暮らしていくよう、日々成長していきたいと思います。